

整形外科

1 診療体制

(1) 外来の状況

一般外来：月曜、木曜は手術日のため、新患および急患のみを診察し、その他の曜日は3診にて診察を行った。

専門外来：

(ア) 脊椎（毎週火・金曜日 加藤剛）

(イ) 形成外科（毎週火曜日午後 埼玉医科大学より、木曜日午前・午後 東京医科歯科大学より派遣）

(ウ) 股関節、膝関節（不定期：1-2か月に1回 東京医科歯科大学整形外科より派遣）

(2) 病棟診療の状況

病棟診療は、手術、外来担当以外の医師が毎日、随時行っている。週に1-2回部長による総回診を、2週に1回リハビリカンファレンスを行っている。

(3) 手術の状況

麻酔科管理の予定手術は、月曜および木曜の午前・午後各1列となっている。その他の曜日にも、随時麻酔科の協力を得て、外傷疾患など予定外での手術を行っている。また、積極的に膝関節や股関節の人工関節置換術を組み込んで、待機手術の増加を図っている。平成29年度の中央手術室における整形外科手術は延べ534件であった。

2 診療スタッフ

部長 加藤 剛（平成28.4.1～） <脊椎外科>

医長 木村 浩明（平成27.4.1～） <手外科>

医師 天野 佑輔（平成29.4.1～H30.3.31） 山田 英利久（平成29.4.1～H30.3.31）

3 診療内容

中央手術室における手術内容は以下のとおりである。

手術件数 534 件

(1) 脊椎 (110 件)

頚椎 19 (後方:18、前方:1)

胸腰椎 81 (除圧:30、後方除圧固定:37、後方矯正固定術:3、BKP:7 など)

脊椎脊髄腫瘍 10 (頚椎:1、胸椎:4、腰仙椎:5)

(2) 上肢 (208 件)

骨折・外傷 147 (うち小児 18)

絞扼性障害、神経剥離など 24

腱鞘切開 27 (うち小児 3)

神経、腱縫合 2

人工関節置換術 1

腫瘍摘出 7

(3) 膝・足 (95 件)

骨折・外傷 71 (うち小児 2)

TKA 8

感染デブリ、切断など 16

(4) 股関節 (121 件)

骨折・外傷 112 (人工骨頭置換:32、ORIF:76、創外固定:4)

THA 9

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
手術総数	338	504	534
外傷	198	299	330
大腿骨近位部	74	86	108
脊椎	55	109	110
人工関節	3	11	18

4 1年間の経過と今後の目標

部長が交代して2年目ということで、前年度との比較でさらなる手術症例、入院患者数などの増加が期待される年であった。前年に引き続き、週に2回の当直体制を敷き、救急部の協力を得て救急搬送される外傷患者を積極的に受け入れていただくようにし、患者数を増やすように努めた。そして、脊椎手術をさらに増やし、予定手術件数を確保したうえで、当科の特徴である3次救急病院における外傷患者の手術数の増大を図った。

しかし結果は、外傷患者は少し増えたが全体的には微増であった。なぜ、患者数は思うように伸びないのか？もし、外傷患者数が頭打ちだとすると、待機手術患者を増やさざるを得ないが果たしてそうなのか。近隣の医院、診療所へのさらなる働きかけをして救急外傷患者をもっともっと引き受けたいと考えている。また、待機手術患者を増やすには、現状スタッフでは脊椎患者を増やさざるを得ず、昨年から訴え続けている手術室（麻酔科）の効率的な運用および従来から既存の予定手術割当枠の改良・変更を提唱し、当科スタッフの週間スケジュールの変更を図ってでも、予定待機患者と救急患者が効率よく手術を実施できるよう、今後も働きかけていきたい。

部長が赴任時から、青梅市近隣、西多摩地区における骨粗鬆症への認識の改善を図るよう働きかけ、平成29年度末によりやく DEXA（骨密度測定機器）装置が当院に設置された。それに先立ち、青梅市医師会、青梅市歯科医師会、青梅市薬剤師会、青梅市行政の4者が相互に協力し、骨粗鬆症の予防と早期発見、早期治療を目的とした「青梅骨粗鬆症ネットワーク（OON）」を立ち上げた。当院を基幹とする本ネットワークにより、青梅市市民への啓蒙活動、骨粗鬆症治療を発展させることで、当院への患者数増加にもつながることと思われる。実際、平成30年度からは整形外科「骨粗鬆症外来」を新設することとした。地域と連携を取り、骨折予防、寝たきり予防に寄与するとともに、発症時の早期対応、受け入れ態勢を強化したいと考えている。長期的にはOONを、当院を基幹として看護師、事務スタッフ、介護サービス、近隣医療機関スタッフとともに、骨粗鬆症リエゾンサービス（OLS）を構築し、各業種それぞれの中に骨粗鬆症マネージャーの資格を持っていただいて、地域全体で骨粗鬆症医療を推進できればと考えている。

当科は、東京医科歯科大学整形外科医局の関連病院として、部長以下スタッフが派遣されている。臨床、教育、研究、それぞれにおいて大学の指示を受けながら、当院でできる特徴的な研修を上級医がローテーター医に教育し、経験してもらうことも大きな目的である。脊椎脊髄手術と手外科手術は、いずれも専門医が上級医として常勤としているため、病院の特徴として脊椎疾患、手外科疾患を重点化するべく、近隣への働きかけを行って症例を集め、手術指導・学術指導にも力を入れ、研修病院としての立場もしっかり築き、大学からの派遣数の増加も将来的には視野に入れてもらえるよう取り組んでいる。とくに、この地域に多くみられる骨粗鬆症性脊椎椎体骨折、脊柱後弯、腰椎椎間板ヘルニア、橈骨遠位端骨折などの疾患に対して、低侵襲でありながら魅力的で身につけておくべき手術手技として、側方経路腰椎椎体間固定術（LIF）、経皮的内視鏡化腰椎椎間板摘出術（PED）、関節鏡視下橈骨遠位端骨折接合術などがあげられ、今後の導入に向けて上級医も検討会、手術見学などに参加し、日々研鑽を重ねている。

BSC

部署名	整形外科							
ミッション	西多摩地域における整形外科の診療拠点として機能する。							
運営方針	1. 患者受け入れの拡大：手術数、入院患者の増加 2. 医療事故の防止：患者管理、スタッフ指導 3. 若手医師の教育：手術経験機会の増加							
項目	戦略的目標	主な成果	指標	基本的手順	26年度実績	27年度実績	28年度実績	29年度目標
顧客の視点	地域信頼度の向上	中枢病院として機能向上	紹介率	紹介状の返事を充実	35.9	36.7	50	55
	地域医療機関との連携	連携の強化	逆紹介率	記入漏れを減らす	56.3	31.9	70	75
経営の視点	医療収益の増加	入院患者数の増加	1日入院患者数	救急患者の受け入れ	27.8	23.3	28.2	35
		手術症例数の増加	年度手術数	紹介患者の増加	336	338	504 うち脊椎109	外傷400 脊椎110
内部プロセスの視点	安全の向上	レベル3以上の事故減少	レベル3以上の事故数	事故原因の析分	0	1	0	0
教育	医療レベルの向上	手術経験数増加	ローテーターの手術「執刀」数	専門医による教育、指導、管理	192	83 (6M) 63 (6M)	149 143	160 160
学習と成長の視点	学術面での向上	学会活動の活発化	発表数	若手医師の発表指導	1	0	6	4

